１．北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連（北海道）	◎	一般小売店［土産］（経営者）	来客数の動き	・10月に入っても、国内線の乗降客数が順調に伸びていることから、景気は良くなっている。平日や週末にかかわらず、若年の方から年配の方まで、幅広い年代の客が当地を訪れており、特に個人客や小規模団体客での利用が多くみられる。インバウンドについては、例年と同様に、乗降客数は少ないものの、高単価商品を購入する客が多くみられる。これらのことから、売上は順調に推移している。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数、売上、客単価のいずれの指標も少しずつ上向いている。インバウンドによる購買については、以前と比べると、弱さがみられるものの、全体的には堅調に推移している。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数がようやく前年並みに回復してきた。ただし、買上点数は、依然として厳しい状況にある。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の発売効果により、販売量が増加しており、収益増につながっている。
	○	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・時期的なこともあって、スタッドレスタイヤを購入する客が多く、売上が好調に推移している。タイヤ関連商材の購入や作業依頼も多く、売上は前年比110％で推移している。そのほか、洗車ニーズの高まりにより、洗車用品の売上も好調に推移している。洗車用品については、単価の高い商材がよく売れていることから、価格よりも質を重視する客が増加していることがうかがえる。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内線の旅客数は、観光需要や帰省需要に加え、次世代半導体関連やデータセンター関連などのビジネス需要が堅調に推移し、前年比で５％程度の増加となった。国際線の旅客数は、中国からのインバウンドが８割の減少となったものの、韓国を中心としたアジア圏からの需要で減少分を補完し、前年比で７％程度の増加となった。当地の航空需要は、国内線、国際線のいずれも好調に推移している。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・教育分野で、海外研修の需要が回復しており、案件数、参加人数のいずれも堅調に推移している。企業分野では、周年事業や記念行事に関連した案件で、参加人数が増加傾向にあり、従業員のエンゲージメント向上や企業文化の醸成を目的とした参加型イベントに対する企業の意欲が高まっている状況がうかがえる。教育分野及び企業分野において、前年を上回る動きがみられることから、市場環境は総じて良くなっている。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・来客数について、ここ３か月の動きをみると、例年を10％程度上回って推移している。特にインバウンドの個人型観光客による利用が多く、主力の台湾を始め、多くの国・地域からの来訪がみられる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入り、最高気温が10度台前半に低下するなか、観光客の入込が減少している。当地のホテルに宿泊するビジネス客や観光客も減っている。
	□	一般小売店［酒］（経営者）	販売量の動き	・10月に入ってから、売上がやや回復しているものの、基調が変わったとみるほどの状況ではない。
	□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・来客数が減っているものの、客単価が上昇していることから、売上としては余り変化がみられない状況にある。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価高を背景に、客の買い控えが長期間にわたって続いている。また、灯油について、記録的な高値が見込まれていると報道されていることもマイナスである。既に厳しい状態にあるなか、悪いまま横ばいで推移している。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・気温が高めで推移していることもあって、衣料品や日用品について、秋物及び冬物の動きが悪く、販売量が計画を下回っている。

□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。特に来店頻度が低下していることから、節約のため、購入点数を減らすだけでなく、来店回数そのものを減らす傾向がうかがえる。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・家計の支出が増える話ばかりであり、景気が良くなるような要因が見当たらない。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・円安を要因とした物価高騰によって、客の節約志向がかつてないほど高まっている。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比の動きをみると、３か月前と変化がみられないことから、景気は変わらない。一方で、セールの売上が好調だったことから、客の節約志向が強く、値頃感を意識した購買行動となっていることがうかがえる。
□	その他専門店［医薬品］（経営者）	販売量の動き	・客足は天候に左右される面がある。10月の当地は、特に荒れた天候もみられなかったことから、主要客層となる中高年の人出が良かった。
□	その他専門店［造花］（店長）	お客様の様子	・クリスマス商材の購買行動が鈍化している。年を追うごとに落ち込む傾向にあり、需要が低迷している状況にある。
□	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・秋シーズンに入っても、来客数、客単価を維持できており、比較的好調な状況が続いている。
□	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・景気は変わっていない。今後については、インバウンドの宿泊人数の動向に注目している。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・オフシーズンに入り、来客数や販売量が減少する時期となっている。前年を下回る傾向は３か月前と変わらないものの、減少幅がやや拡大している。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・10月は天候の良い日が多く、気温も月末までは平年を上回っていたことから、タクシーの利用客は前年よりもやや減っている。タクシー１台当たりの売上は、前年比プラス３％ほどであったものの、前年12月に約10%の値上げを実施したことを踏まえると、今一つであった。ただし、当社ではドライバーの採用に注力している効果で、前年よりもドライバーの人数がやや増えており、それに伴ってタクシーの稼働台数も増えているため、会社の売上は前年比プラス10%ほどであった。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・10月に入り、寒暖差が大きくなっていることから、利用客数が減少している。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・当地は港町であり、今年は魚の水揚げが少なく、船団の寄港も減っていることから、景気の悪い状況が続いている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の利用が余り伸びず、地元客の動きも余り良くなかったことから、景気は変わらない。
□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・携帯電話について、今年度上期は他社からの乗換えが前年を上回る水準で推移していたものの、足元の販売量の動きは一服感がみられる。料金プランの変更や端末、固定通信などに対する需要は引き続きみられるものの、販売実績をみる限り、大きく伸びている状況にはない。このため、景気は、３か月前とおおむね横ばいでの推移となっている。
□	その他サービスの動向を把握できる者［フェリー］（従業員）	来客数の動き	・閑散期を迎えるなか、旅客及び車両の輸送量は例年とほとんど変わっていないものの、今年は天候要因による欠航が目立っている。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築費の高止まりに加え、金利が上昇基調にあることから、客の購買意欲が上向いてこない。
□	住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・物価上昇の動きに客が慣れてきた面はあるものの、これからも物価上昇が続くと見込まれることから、客の意識が生活防衛に向きやすくなっている。そのため、景気は変わらない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高騰により客の買い控えが強まり始めている。また、駐車場の稼働率も低下している。ガソリン料金が高騰していることで、車での来店を控えているとみられる。

▲	百貨店（売場主任）	単価の動き	・当地の初雪が前年よりも１週間ほど遅かったこともあって、冬物の出足が鈍くなっている。また、インバウンドについては、国慶節における中国人観光客の動員が厳しかったことから、苦戦した。全体としては、10月はやや苦戦した。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・世の中の動きがつかみづらくなっていることで、消費が落ち込んでいる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・販売動向をみると、ビール類の売上減少が顕著にみられる。酒税法の改正により、ビールは値下がりしたものの、発泡酒が値上がりしたことで、これまで発泡酒を購入していた客の購買が減少しており、全体の売上を押し下げている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・10月に入り、加熱式たばこが値上げされたこと、酒税法の改正により発泡酒など第３のビールが値上げされたことから、たばこ及び酒類の買い控えが進んでいる。販売量が相当落ち込んでおり、売上の足を引っ張っている。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・ガソリン料金や灯油価格が上昇しているなか、気温が低下するにつれて、来客数が伸びている。特に、冬物衣料の販売量が増加している。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・経済の先行きが不透明なことから、個人消費が鈍化傾向にある。新車受注や中古車販売も厳しい状況にあり、収益環境は前年と比べても厳しくなっている。また、台風が続いたことで、新車輸送に生じた遅れが解消できず、新車販売に影響が出ている。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数が前年を２割ほど下回っている。新型車が少ないこと、金利が高いことから、厳しい販売状況にあり、当店も含めて全店で目標を達成できていない状況にある。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・イベントの来場者数は前年並みで推移しているものの、受注台数は前年を下回っている。景気の先行き不安から、車の買換え時期を迎えても、車検を受けて乗り続けることを選択する客が増えている。
▲	その他専門店［ガソリンスタンド］（経営者）	単価の動き	・灯油価格が高騰していることで、販売量及び利益が厳しい状況となっている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・気温の影響もあって、来客数が前年を下回っており、売上はやや悪い状況にある。取引先の飲料業者では、特に高額品の予約が不調なようで、購入依頼の連絡があった。一方、ホテルのビュッフェ店は、開店前から行列のできる店もみられるなど盛況なようである。コース料理中心の店では考えにくい状況であり、羨ましくもある。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・10月の来客数が減少傾向にある。客単価も伸び悩んでいる。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・10月は、旅行に関する相談件数、見積件数のいずれも前年を下回った。新規の問合せが伸び悩んでいることに加え、案件の具体化に伴って見積りを提示するケースが減少している。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・10月に入り、観光需要が一段落し、地元住民による利用が主体となっている。当地全体の景気が良いとはいえない状況にあることもあって、タクシーの運行本数は、前年を１割ほど下回っている。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・灯油価格がガソリン料金に近い水準まで上昇していることで、客の節約志向が顕著にみられるようになっている。これから除雪に関する支出が増えることもあって、今後も同様の状況が続くことになれば、売上がかなり落ち込むことになる。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・10月の売上は、前月や前年と比べて、約５％の落ち込みとなっている。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・店頭商品が値上げされたことで、欲しくても買うことを諦める客が増えている。

	▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・非住宅部門は割と堅調に推移しているものの、一般住宅は着工数がほとんど増えておらず、引き続き非常に厳しい状況にある。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客について、予算制約が厳しくなっていることがうかがえる。購入に至るまでの判断に時間を要するようになっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・10月後半に寒気が流入したことで、冬物需要が高まったものの、価格にシビアな客が多く、購買を決めるまで数日にわたって下見を続けるようなケースが増えている。
企業動向関連 （北海道）	◎	－	－	－
	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・９月以降、受注量が上向き始めている。３か月前と比較すると、景気は上向き傾向にある。
	○	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部ではあるものの、設備投資を含め、法人需要が活発になっている。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・工事の追い込み期に入り、各現場では年度内の完工に向けて、工事が順調に進捗している。今年は、台風や豪雨による工事への影響がほとんどなかったことも、工事利益を確保する上でプラスとなっている。また、追加工事に伴う変更契約も随時決まっており、完工高、利益共に、当初の見込みを上回る状況となっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫保管については、バターなどの乳製品の在庫が引き続き堅調に推移している。農畜産物の輸送については、玉ねぎが豊作であったことから、国内向けが大幅に増加しているほか、輸出向けも増加している。また、紙パルプの輸送についても、工場の生産が順調なことから好調な荷動きとなっている。今年は荒天の影響により、貨物船便数が減っているものの、陸送への切替えなどで対応できている。
	○	通信業（営業担当）	取引先の様子	・半導体関連やデータセンターなどを巡る動きが明らかになるにつれて、ビジネスとして期待できるような話題もみられるようになっている。
	○	その他サービス業［建設機械リース］（営業担当）	取引先の様子	・人手不足、資材価格の高騰などの懸念事項はあるものの、国内の建設投資は緩やかな増加傾向で推移している。
	○	その他非製造業［鋼材卸売］（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注案件が順調に増えている。また、設備の更新も含め、設備投資に興味を持つ客先が増えている。ただし、客先において、人材不足や働き方についての改善が順調に進んでいないことは気掛かりである。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月の動きは変わっていないものの、前年と比較すると、売上も販売量も減少している。
	□	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・住宅関連業界の景気は下向きのまま変わっていない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件はあるものの、建設費高騰や技術者不足のため、契約に至らないケースが多くみられる。計画がストップする案件も増えている。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・農畜産物の物流が順調に推移している。ただし、これは例年の動きであり、物量が特別増加しているわけではない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・中途採用、新卒採用、外国人雇用のいずれについても、離職者が増加しているという企業の声が多く、人手不足感が強まっている。ただし、募集賃金の引上げなど更なるコストを掛けて人材を雇用しようという動きは弱まっている。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・売上目標に対して、上振れも下振れもなく推移している。客先の状況も特に変化がみられない。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・相続以外の不動産取引に関連する登記業務の売上がそれなりにあることから、３か月前とさほど変わらない。周りの同業者をみても、仕事に困っている様子はみられない。ただし、建築資材などの物価高騰の影響を案じていることが多く、景気は良くも悪くもない状況にある。

	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・セキュリティの重要性を認識する企業は多いものの、実際に対策を講じる企業の絶対数は非常に少ない。設備投資に対して、十分に積極的になれない企業が多いとみられる。
	□	その他サービス業［ソフトウェア開発］（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ＡＩ関連で余り良くない話を耳にする機会はあるものの、まだ直接的な影響が生じているわけではない。
	▲	農林水産業（経営者）	それ以外	・関東地方などの長雨の影響で、農作物の価格が高いまま推移している。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・例年と比べ、受注量が減少している。新築建物やリフォーム工事に必要な資材を始め、様々な物の価格が高騰していることが要因とみられ、改善する要素が見当たらないことから、景気はやや悪くなっている。
	×	－	－	－
雇用関連 （北海道）	◎	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・秋口に入り、冬のボーナス受給後の年明け入社を見据え、本格的に転職活動を始める求職者数が増えている。企業側の採用意欲も引き続き底堅いことから、求職者が転職に対して具体的に動き出したことで、面接から採用決定までスムーズに進むケースが増加している。選考のスピード感も増している。人材の流動性が高まり、現場の活況が感じられることから、景気は良くなっている。
	○	－	－	－
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・アルバイトやパートの求人数の減少は底を打ったとみられる。一方、正社員の求人数は依然として減少している。人手が必要と捉えている企業は多いものの、より中核人材の募集にシフトしているため、なかなか求める人材を採用できない状況にある。また、採用手法を模索している企業は多いものの、経費をそれほど掛けることができないとする企業が多い。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を除けば、業種を問わず求人数は大きく変わっていない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・10年ほど前に進出してきた全国大手の競合が当地から撤退した。地方都市における今後のビジネス機会の乏しさが要因とみられる。中長期的な視点から、将来性や収益性が期待できないエリアとみなす企業が、今後、増加することを懸念している。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年や直近数か月と比べると、求人数は減少しているものの、企業の話からは、引き続き採用意欲が高いことがうかがえる。
	□	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・企業の採用活動の様子をみると、当地の経済動向は足踏み感がみられる。一方、人手不足が続いている産業については、採用活動が常態的に行われていることから、景気に左右されるものではないとみられる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における９月の月間有効求人倍率は、前年を0.07ポイント下回る0.73倍であった。一方、３か月前の有効求人倍率は、前年を0.07ポイント下回る0.71倍であったことから、景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は減少傾向にあるものの、求人数の減少幅は月によって変動している。また、業種によっては外国人雇用で対応する事業所もみられる。そのため、求人数の減少が総じて景気の悪化によるものとは判断できない状況にある。今後も、物価高騰や人件費増加、人口減少、少子高齢化の影響など様々な動きを注視する必要がある。
	□	学校［大学］（就職担当）	採用者数の動き	・観光需要や個人消費に支えられ、緩やかな持ち直しの動きが続いている。一方、企業の採用者数や求人状況には大きな変化はみられない。人手不足感は強いものの、おおむね横ばいでの推移となっている。
	▲	＊	＊	＊
	×	－	－	－